



3月議会の報告

過去2番目に大きい 将来を見ない予算編成

年度	財政調整基金残高
2020	20億円
2021	13億円
2022	11億円
2023	8億円
2024	7億円
2025	8億円

2020年度の予算案が3月議会で審議されました。一般会計予算は、財政調整基金（貯金）を13億円取り崩し、過去2番目に大きな規模の予算です。しかし左の表の通り財政調整基金は年々減少し、このままでは今のような多額の財政調整基金を取り崩しての予算編成はできなくなります。そのことは櫻井市長も認めました。

また、総合計画の後期基本計画が2022年度から始まりますが、大きな事業はこれから決まることになり、残高はさらに減少します。

新庁舎に50億円以上、公共施設に年23億円

さらにその後も2026、27年度には新庁舎建設として土地購入費を除き50億円ほど、2027年度以降は老朽化が進む公共施設の建て替えなどに、毎年23億円（現在は年約14億円）ほど必要になると予想されています。また亀山市はリニア亀山駅誘致（2027年に東京一名古屋間が開業予定）を進めていますが、この中間駅が決まれば新庁舎建設以上のかなりの予算が必要と見込まれます（中間駅に決まった岐阜県中津川市では「400億円でまちづくり」が計画されています）。

駅前再開発に15億円 タクシー券は廃止、中学校給食は検討のみ

実際の予算の中身では、新図書館を含む亀山駅周辺整備事業が15億円（総事業費は71億円）と突出していますが、この事業に対する市民の理解は得られておらず、少なからぬ権利者の願いにも反するものです。

また多くの市民が継続を求めたタクシー券は一部を除き廃止、完全給食が決まったのに「検討」しかされない中学校給食、待機児童対策として緊急に取り組むべき老朽化した保育園の建て替え計画がないなど市民生活にとって不可欠な予算が計上されていません。

党市議団は、「将来の財政負担を考慮することなく、大規模事業優先で市民の命と暮らしを守り、切実な要求に十分応えない問題のある予算」だと指摘し、この一般会計予算案には反対しました（反対5、賛成12で可決）。

福沢みゆき議員が代表質問

新型コロナ対策 どの子の命も守るべき

新型コロナウイルスの感染防止対策として3月、小・中学校が一斉休校となりました。放課後児童クラブ（学童保育所）は、本来なら連動して閉所となるはずでしたが、市の強い要請により開所となりました。

こども1人当たりの面積（㎡）

小学校	4.575～12.5
中学校	5.65～15
保育所	1.98～3.3
放課後児童クラブ	1.65

福沢みゆき議員は代表質問で、右の表の通り、学校と比べて極端に狭い放課後児童クラブの一人当たり面積基準を質しました。

※市の答弁より作成

必死に頑張る放課後児童クラブ 現場の声を伝える

子どもたちの命を守るための休校と言いながら、保健室もない、狭い放課後児童クラブに、長時間子どもたちがいることになることの矛盾、情報も不十分で衛生資材も欠乏する中で必死に子どもたちを守る現場の声を伝えました。納得のいく答弁は何ら得られず、命を守るといふならばどの子の命も守るべきと強く求め質問を終えました。

この市議団ニュース「いきいき亀山」は政務活動費を使って発行しています

亀山駅周辺整備事業 3年間で19億円を繰り越し

年度	予算現額	翌年度繰越額	執行率
2017	1億9千万円	1億1千万円	38.6
2018	15億8千万円	14億2千万円	10.2
2019	4億6千万円	3億7千万円	18.9
17～19計	22億3千万円	19億円	14.4
2020	9億6千万円	-----	-----

服部こうき議員は議案質疑で、亀山駅周辺整備事業を質しました。左の表は、この事業の予算とその執行率、翌年度への繰越額です。

2017年度から19年度までの3年間で22億円もの予算を組みながら、その執行率は14%と異常に低く、予算の85%を翌年度に繰り越し

ています（上の表のうち、2019年度の繰越額、執行率は見込み）。

服部こうき議員は、このような異常な予算執行となったのは、事業の進捗しんちよくに合わせて予算を組むのではなく、使えなかったら繰り越せばいいという安易な姿勢があったからだを指摘しました。

党議員団は、この事業が市民の理解が得られていない事業であることを再三指摘し、何よりも駅前の権利者が犠牲になることがないようにすることを強く求めてきました。

タクシー券 460万円は少なすぎる

福沢みゆき議員は予算決算委員会で、高齢者タクシー料金助成事業（タクシー券）を取り上げ質しました。2020年度はタクシー券を乗合タクシー制度に移行し、乗合タクシーの利用が困難と相談があった方のみ丁寧ていねいに事情を聴いてタクシー券を交付するというで例年の4分の1程度の予算額になったのです。

福沢みゆき議員は、460万円の予算は少なすぎるのではないかと質しました。この額は、昨年度の実績から算出されており、周知は不十分で、あいまいに自力で行けず申請に結び付いていない方の数は入っていないからです。そういう方を含め丁寧に周知することを求めましたが、周知対象者は昨年度のタクシー券交付者、まちづくり協議会、民生児童委員にとどまり不十分なままの答弁でした。

ぜひ市に相談を 乗合タクシーに乗れない人

乗合タクシーに乗れない人はたくさんみえます。このような方々があいまいに相談に行けば丁寧に事情を聴き取り必要と認めればタクシー券を交付するとのこと。市は予算を超える人数になったとしても財政当局と相談し対応すると答弁しましたのであきらめず相談に行ってくださいと思います。

新たな定員適正化計画 非正規率5割の見直しへ

服部こうき議員は予算決算委員会で、2020年度から始まる第4次定員適正化計画を取り上げました。亀山市は国の職員削減を求める「集中改革プラン」に従い、業務量が増加しても正規職員を増やさずに非正規職員を増やすことで対応してきました。その結果、正規職員が5割、非正規職員が5割といういびつな職員体制になっています。こうした中、今年度から会計年度任用職員制度が始まりましたが、いびつな職員体制がどう是正されるのかが問われています。

真に必要な職種には正規職員を配置する

服部こうき議員は、本来正規職員を置くべきところに非正規職員を置いてきたのを改めるべきであり、これを第4次定員適正化計画でどうするのか質しました。市は、「定数条例の改正で育児休業中の職員は定数には含まないようにした。また、真に必要な職種には正規職員を配置していく。2021年度の採用計画で具体化し、会計年度任用職員の業務を正規職員の補助と明確化するので職員に占める非正規職員の比率は下がっていく。」と答弁しました。

市政や暮らしの相談、ご意見は

服部こうき 電話、FAX 82-3646 メール kouki.giin@gmail.com

福沢みゆき 電話、FAX 83-2938 メール pettantann@i.softbank.jp

市議団ホームページ「共産党 亀山」で検索を